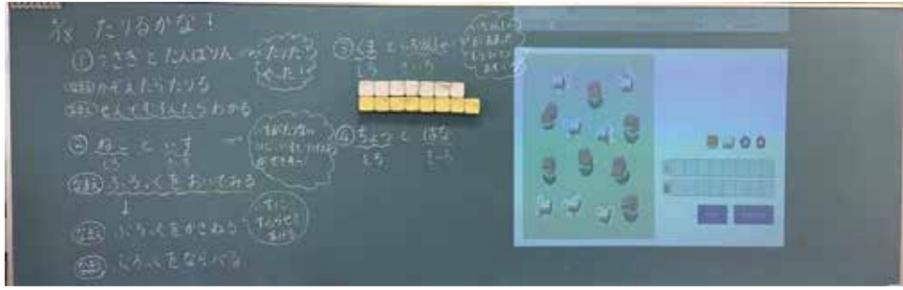


A
算数で

Ⅱ期 (1年生4月)

- 単元 「くらべたことが あるかな」(東京書籍)
- 目標 幼児期に育った数や量への関心・感覚を想起して、算数への学習への期待をもつ



【幼児期の経験を引き出す問いかけ】

教師 音楽会があるんだけど、うさぎさんがタンバリンの担当なの。
タンバリンはたりのかな？
子ども 数えたら たりの
子ども 線で結んだら わかる
子ども マルでくる
子ども たりたよ やった!

学びのつながりを考えてみよう

- 幼** 小学校の学習は、教科書を使ってすぐに学習が始まるイメージです。みんなが、学習についていけるのか心配です。
- 小** 算数では、学習が始まる「とびら」の部分があります。これはとても大事な小学校の学習の入り口です。
- 幼** 具体的にどのように工夫しているのですか？
- 小** 幼児期の育ちや学びを生かす観点から、言葉掛けを工夫しています。子どもが、具体的な生活の場面やこれまでの経験を想起し、イメージをもちやすいような言葉掛けを意識しています。「こんなことやったことある？」と投げかけると、すぐに答えがかえってくるので、いろいろな経験を引き出すことを心掛けています。園では、5歳児後半に意識していることはありますか？
- 幼** 園では、遊びの中で何か困ったことや幼児が疑問に思ったことがあったとき、すぐに正解を伝えたり、解決の方法を提示するのではなく、幼児が考え、様々なことを試したり、友達と考えを出し合ったりしながら、解決に向かう姿を見守ることを大切にしています。
- 小** 具体的にはどのようなことですか？
- 幼** 幼児が抱く「こうしたい」という気持ちを大切に、必要感をもって遊び、考える機会を奪わないように意識しています。例えば、必ずしも人数と同じ数を用意することを決めないなど、完全過ぎない不完全な環境にしておくこともします。自分で「考えること」が結果として、小学校以降の学習に生かされ、つながっていくと思います。
- 小** 解決する姿を見守るのは、小学校も同様です。幼児期にそうした経験があると、教科書に出てくる場面でも、自分たちの経験と結びつけて自分事として捉えることができますね。



幼児教育と小学校教育の一層の学びのつながりを目指す 架け橋プログラム
港区版 架け橋期のカリキュラム

電子データは、こちらから港区ホームページにアクセスできます →

学びのつながりが分かる!

大人が何をするとよいのが分かる!

接続のとびらをあけて



ここが架け橋期です

架け橋期の教育

	0歳～2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	～18歳
期の分け方				I期 前期	Ⅱ期 後期 前期	Ⅲ期 後期					
	幼児期の教育			次の期への移行		小学校教育					

Ⅱ期に注目しています

Ⅱ期は、行きつ戻りつしながら小学校の「学び方」へと向かう重要な期間なのです

架け橋プログラムとは

5歳児から小学校1年生までの2年間を「架け橋期」として、架け橋期の教育の充実を図るため、保育園・幼稚園・小学校の保育士、教師はもとより、保護者や地域住民等、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人ひとりの多様性に配慮した上で、全ての子どもに学びや生活の基盤を育てるようを目指すものです

港区のカリキュラムの特色

5歳児と小学校1年生の架け橋期の2年間を三つの期に分けて考え、学びのつながりを意識できるようにしました
カリキュラムには、共通の視点を設定し、学びをつなぐ保育士や教師の関わり方について、具体的に掲載しました

港区の取組

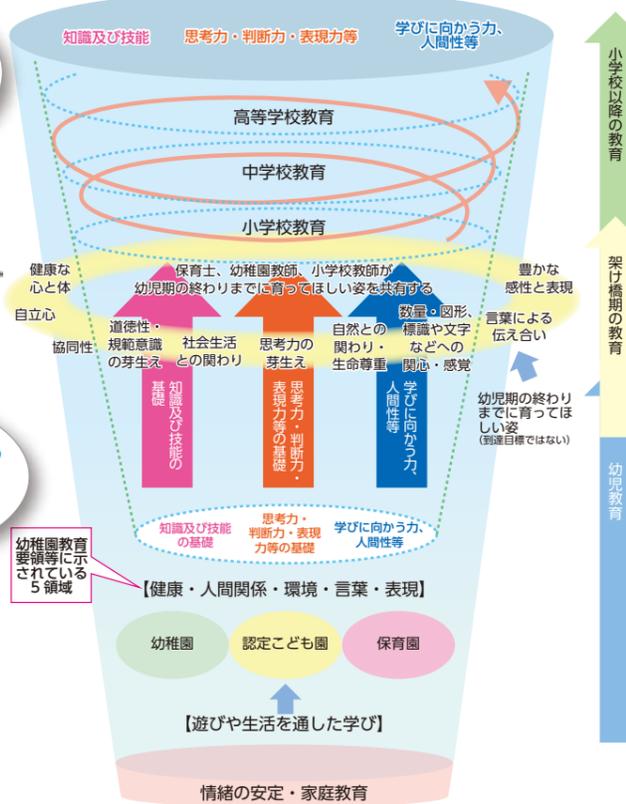
- 港区全体で質の高い教育を推進します
- 育みたい資質・能力の連続性・一貫性を意識した取組
- 学びのつながりを一層意識した取組
- 実行し、実効性につなげる取組



Q 実効性のある取組にするために、意識することは？

A 期ごとに期待する子ども像を設定しています。発達の流れ、育みたい資質・能力を見通しましょう。

教育・保育の流れの全体図(イメージ図)



育みたい資質・能力は一貫して連続しているのね

学びがつながっていることを特に意識するII期が重要なんだね

期待する子ども像

III期

- 経験で得たことを生かし、主体的に学習に取り組む
- 学級の一員としてみんなでやることの楽しさを感じ見通しをもって粘り強く取り組む
- 自己発揮や自己調整の中で、自分の世界を広げていく

II期

- みんなと楽しみながら関わり、目的に向けて、自分で考えたり、工夫したり、協力したりしながら、あきらめずにやり遂げる
- 様々な活動(授業)を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、必要感をもって取り組み、自信をもって行動する

I期

- 自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせる
- 友達と互いの思いや考えなどを共有して、共通の目的の実現に向けて考えたり、工夫したりする

Q 学びのつながりを意識するとは？



II期 (1年生4月)

- 単元 「あいうえおで あそぼう」(光村図書) 第1時/2時間
- 目標 声に出して楽しく読み、「あいうえお」に親しむ。幼児期の経験を生かして、言葉の世界を広げていく。

ことばのとびら

【子どもの考えを引き出す問いかけ】

教師 この間、オオカミが出てくる「あいうえお」の絵本を見ましたね。Aさんが「あいうえおのうた」と似ているね」と言っていたのだけど、どうしてかな？

Aさん オオカミくんがあいうえおの楽しいお話をつくって遊んでいたときに、教科書の「さんかく・しかく」を「サッカー・シュート」にできると思ったんだ。

教師 なるほど。

Bさん 先生! 他の言葉もできるよ!

教師 本当? 他の言葉ってどんなの?

Cさん あいうえおの言葉だったら… あざらし アイ ス 空き缶 いす いるか いちご!

Dさん なんだか1年1組のあいうえおの歌ができそう。

Eさん 楽しそう、つくろうよ。いいね、続きもつくろう。



学級みんなで考えた「1ねん1くみ あいうえおであそぼう」の歌

学びのつながりを考えてみよう

- 幼** 幼稚園・保育園から見ると日常生活で使っている言葉がすべて国語につながっているように思います。小学校では学習としての国語はどのように始まるのですか？
- 小** 国語の学習は大まかに、「話をよく聞くこと」「自分の思いを伝えること」「字を書くこと」「文字を読むこと、お話しを読むこと」です。子どもたちの「教科書を使って勉強したい」という意欲的な気持ちに応えられるように、小学校の学習のはじめの一歩は、教科書を自分で自由に見る時間をとります。
- 幼** そのときの、子どもたちの反応はどうですか？
- 小** 「楽しそう」「これ、何するんだろう?」「このお話、知ってる!」とそれぞれが自分の気づきを表現しています。教師は、「もっと知りたいな」「教えてほしい」という気持ちで子どもたちに言葉を掛け、話していることを文字や絵などを板書して、話し言葉を補うようにして、それを共有しながら、みんなが理解できるようにしています。このようにして、国語の学習が始まります。
- 幼** なるほど。「とびら」のような学習の入り口があるんですね。絵があると視覚的にも理解しやすいですね。文字を読んだり書いたりできるようになっている子どももいますが、絵と文字を同時に表記することによって、すべての子どもが理解することができそうですね。そして、自分の言葉でなんでも話せることも大切にしているんですね。
- 小** 「読むこと」「書くこと」と言えば、絵本の読み聞かせを小学校でもしていますよ。
- 幼** そうなのですね。園では、絵本の読み聞かせは日常的にしています。絵を見たり言葉を聞いたりして、お話のイメージをふくらませ、イメージを豊かにすることを大切にしています。知らない言葉に出会うと、「それってどういう意味?」と尋ねたり、面白いリズムカルな言葉はすぐに覚えて繰り返し楽しんだりしています。表現遊びなどのように、その役になりきって遊ぶなど、絵本からの情報を得て、さらに体験を豊かにしています。
- 小** そう考えると、「絵本の読み聞かせ」の活動は、幼児教育と小学校教育がつながっているイメージがもちやすいですね。

A II期には、小学校の学習の始期である、様々な「とびら」があります。子ども自身が、自分で「とびら」をあげられるような取組を意識してみましょう。

※カリキュラムのイメージ

	I期	II期	III期
	0歳~	5歳児	小学1年生
共通の視点として考えられる項目例	4 5 6 7	9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
①期待する子ども像			
②発達の流れ			
③園での体験や経験と各教科等の学習のつながり			
④指導上の配慮点	関わり ICT 交流		
⑤環境の構成			

「とびら」は小学校の学習の入り口

共通の視点で学びのつながりを考えてみよう

II期の学びのつながりを考えてみよう

子どもの興味や関心、「やってみよう」気持ちに働き掛けよう

友達と協同する楽しい経験を

「困った」「どうしよう」の気持ちから一緒に考えよう

失敗を恐れずに試行錯誤する経験を

具体から半具体、そして抽象へと物的な環境を工夫してみよう

幼児期の環境の工夫を生かす

子どもにとって必要感が感じられるように展開を考えよう

必要感のある取組にする

「教えて」「聞かせて」「みんなであそぼう」と子どもたちから引き出していこう

幼児期の経験を引き出す